

Canon AE-1

PROGRAM



J

日本語版

使用説明書

ご挨拶

キヤノン製品のお買上げありがとうございます。
このカメラは高度な電子技術を背景として誕生した高級AE一眼レフカメラです。

初心者の方にはプログラムAE、ハイテクニク
クを駆使したい方にはシャッター優先AE、マ
ニュアル撮影と、すべての方々にご満足いた

だけの機能を備えています。しかし、優れた
機能も正しい使い方がなければ、その性能を
十分に発揮できません。

従って、ご使用にあたってはカメラをお手に
とって、よく使用説明書をお読みいただき、
ご理解くださるようお願いいたします。

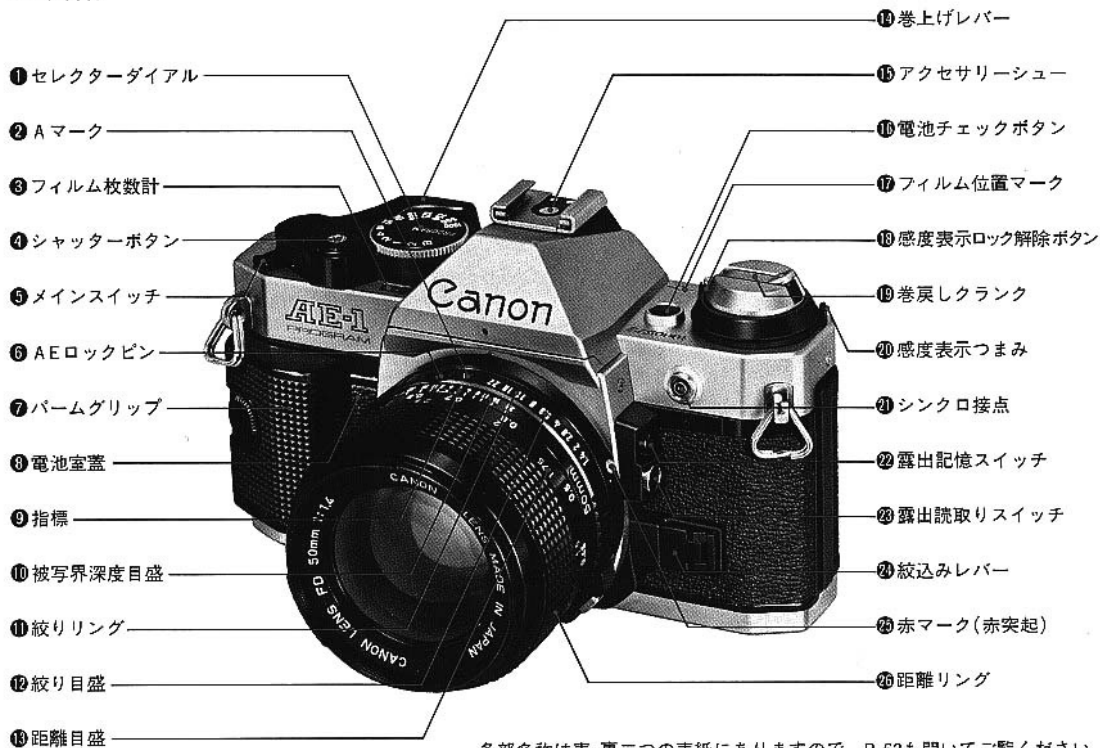
基本撮影操作編

1. レンズを取付けます……………6
2. レンズをAマークに合わせます……………8
3. 電池を入れます……………8
4. 電池性能を調べます……………10
5. フィルム感度を合わせます……………12
6. フィルムを入れます……………13
7. カメラの構えかたの基本……………16
8. 撮影モードを選びます……………17
9. ピントを合わせ撮影します……………19
10. フィルムを巻戻します……………21

各部機構と応用編

1. 電池性能の調べかたと取扱い……………26
2. 露出：シャッターと絞りのはたらき……………28
3. シャッタースピードの選びかた……………30
4. 絞りについて……………32
5. ファインダー……………35
6. 露出の確認……………39
7. 被写界深度……………42
8. 露出の補正をしたいとき……………44
9. マニュアル(手動)撮影……………46
10. 近接拡大撮影と絞込みの手動測光……………47
11. 長時間露出とB(バルブ)……………49
12. 赤外写真と赤外マーク……………50
13. フラッシュ撮影……………50
14. 主な付属品……………54

各部名称

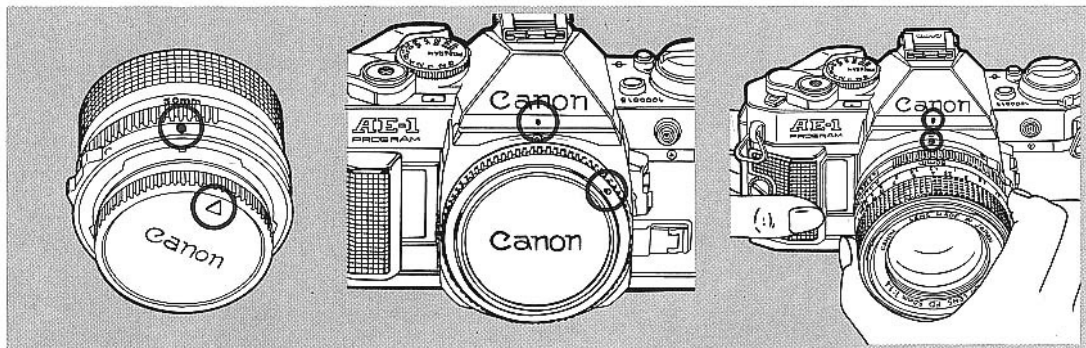


各部名称は表・裏二つの表紙にありますので、P. 62も開いてご覧ください。





1. レンズを取付けます



底蓋を回してははずします。

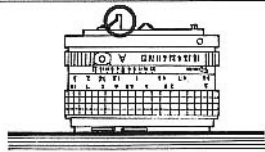
取付けるときは底蓋の△印と○印部を合わせ、底蓋を時計方向に回します。

ボディキャップを回してははずします。取付けるときは赤マークと赤マークを合わせて回します。

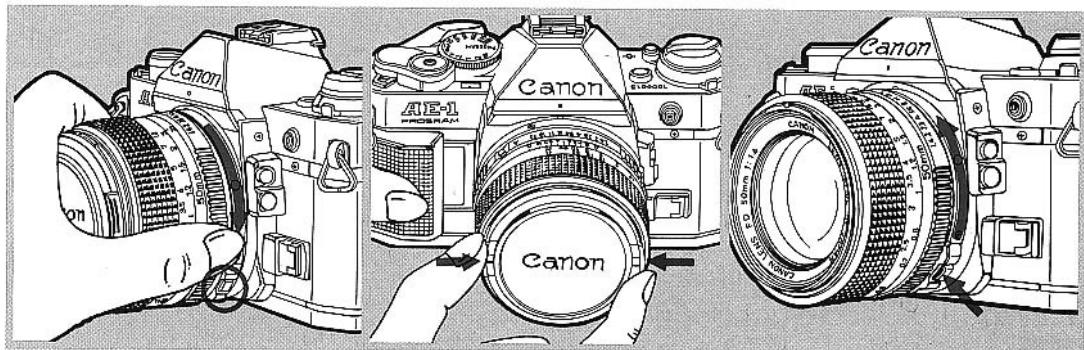
レンズを取付けます。

(1)カメラとレンズの赤マークを合わせて押付けます。

レンズをカメラからはずして机などに置くときは、レンズ後部を上にして置いてください。下にすると突き出ているピンやレンズをいためることがあります。



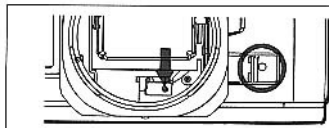
FDレンズはフィルムの巻上げ途中で取付けないでください。



(2)レンズ全体を完全に止まるまで回します。完全に取付くとカチッという取付音と同時に、○印のレンズ取りはずしボタンが飛び出します。

キャップをはずします。
キャップは両側の爪を押すとはずれます。

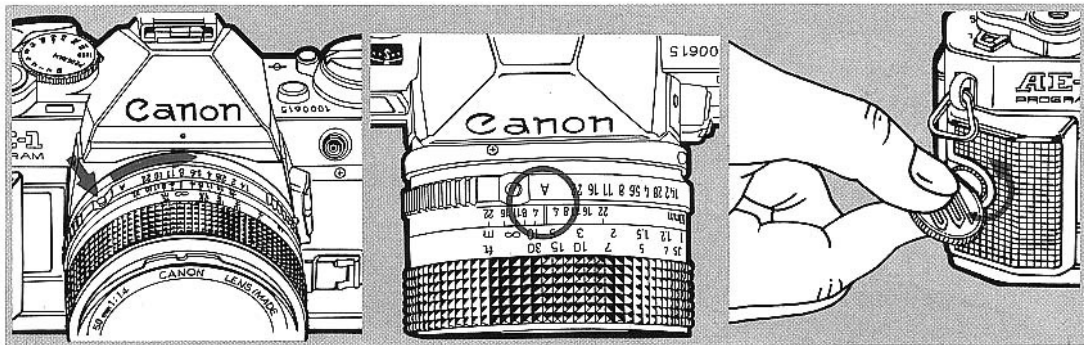
レンズをはずすときは、レンズ取りはずしボタンを押しながら矢印方向一杯に回します。



矢印部に赤マークが見える状態でレンズを取付けると、不適正露出になります。見えるときは○印のレバーを倒してください。

2. レンズをAマークに合わせます

3. 電池を入れます



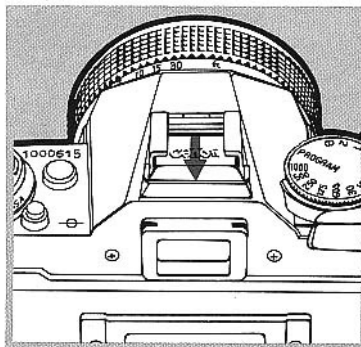
(1) AEロックピンを押しながら絞りリングを回します。

(2) 図のように指標にAマークを合わせます。Aマークにすることによって自動露出撮影になります。

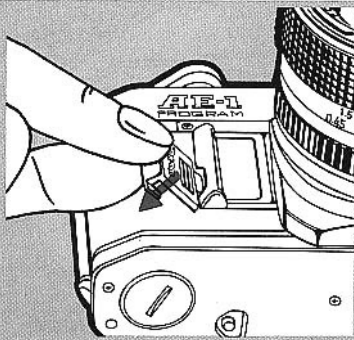
(1) コインなどを利用してパームグリップをはずします。

Aマークをはずすときも、AEロックピンを押付けながら回してください。

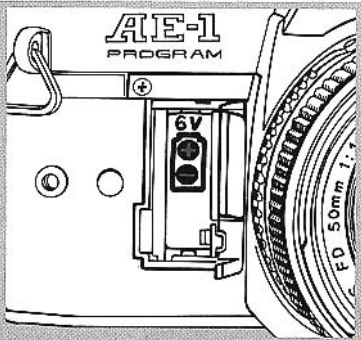
シャッター優先AE、プログラムAEともレンズの絞りリングは、Aに合わせてください。



(2)電池室はファインダーカバーを利用すると簡単に開けられますので、ファインダーカバーをはずします。



(3)電池室カバーの溝に先端を差込み、電池室蓋を開けます。

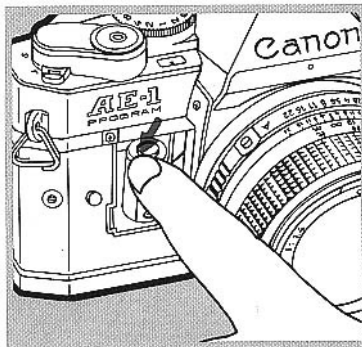


(4)電池を入れます。
電池室の図に従い⊕⊖の向きを間違えないようにして入れてください。向きを間違えるとカメラは作動しません。

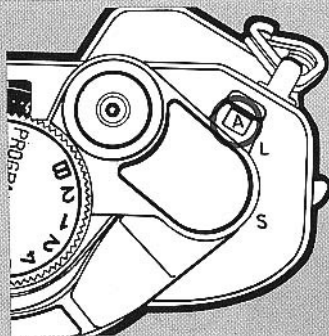
このカメラは必要な電池電圧がないと動かない安全回路が組込まれています。

電池は普通の撮影状態で約1年間使用できます。

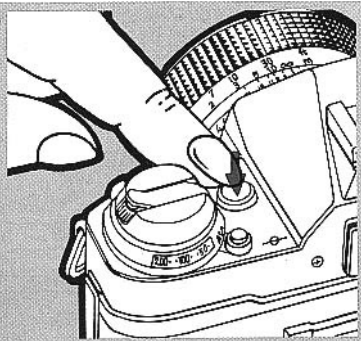
4. 電池性能を調べます



(5)電池は上から押付けるようにして入れます。



(1)メインスイッチをAにします。
Aにすると電子回路が働きます。



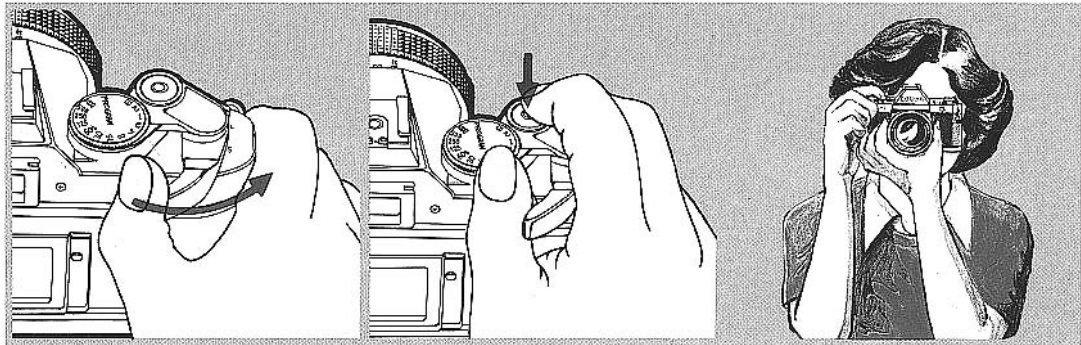
(2)指先で電池チェックボタンを押付けます。

電子音がすれば撮影できます。電池がなくなってくると、発音音間隔が長くなります。そのような場合は電池を交換してください。

電池の詳細および寒冷地での取扱いなどについてはP.26, 27をご覧ください。

カメラを使用しないときは、不用意な電池消耗や無駄写しを防ぐため、メインスイッチをLにしてください。

★フィルムを入れる前にカメラに慣れてください



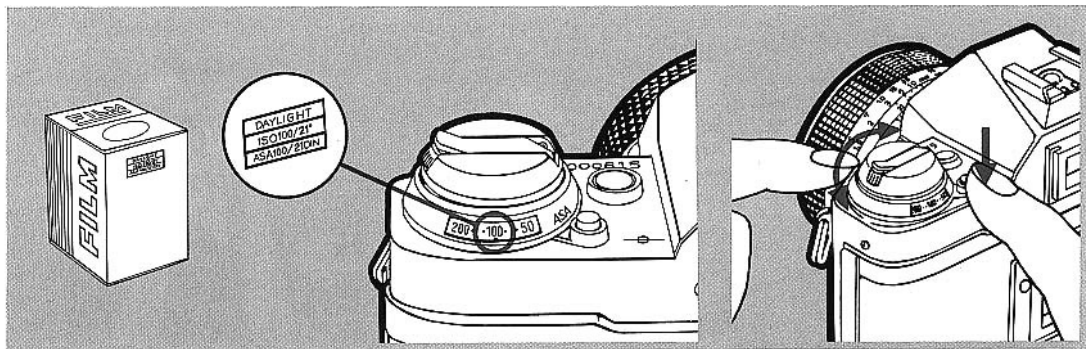
(1)フィルム巻上げレバーを引出し、指をかけやすい状態にします。レバーを止まるまで回します。小刻み巻上げもできます。

(2)シャッターボタンを押します。指をのせた状態から静かに押ししてください。繰返し練習してカメラに慣れてください。

シャッターボタンは巻上げレバーを完全に回さないと押せません。またメインスイッチがしになっていると押せません。

シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に絞り数字が表示されます。

5. フィルム感度を合わせます



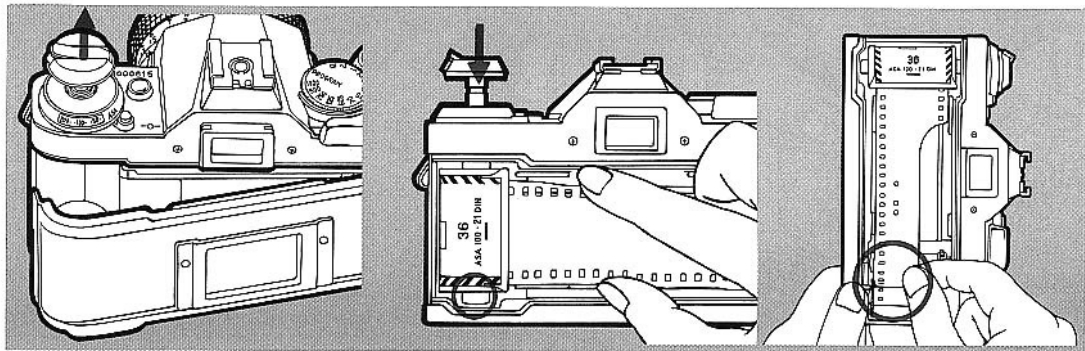
(1) フィルムの箱に書いてある感度数字(ASA)をフィルム感度表示窓に合わせます。

(2) 表示するときはロックボタンを押しながら、フィルム感度セットつまみを回します。

感度数字は次のようになり、中間の点は()内の感度数字になります。

ASA 12 · · 25 · · 50 · · 100 · · 200 · · 400 · · 800 · · 1600 · · 3200
(16)(20) (32)(40) (64)(80) (125)(160) (250)(320) (500)(640) (1000)(1250) (2000)(2500)

6. フィルムを入れます

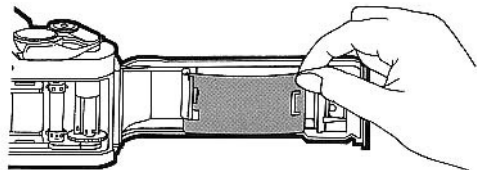


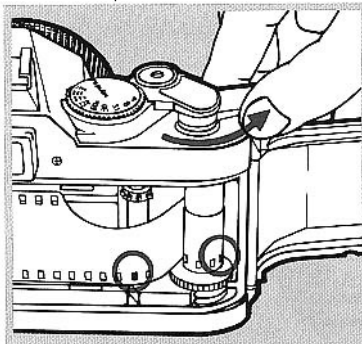
(1) 巻戻しクランクを強く引っ張って裏蓋を開けます。

(2) フィルムを入れ、巻戻しクランクを押戻します。戻らないときはクランクを軽く左右に回してください。

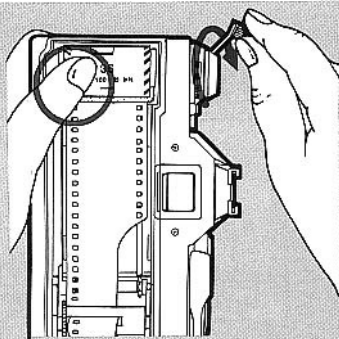
(3) フィルム先端を巻取り軸の溝に十分に差込んでください。

お買求め後、初めてカメラを使用するときは、フィルムを入れるまえに図のように裏蓋の内側についている、プラスチックカバーをはずして捨ててください。

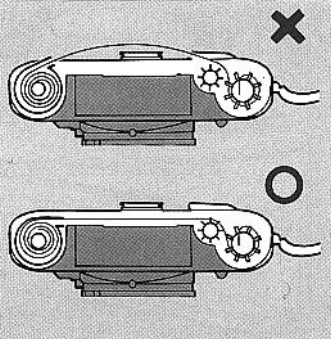




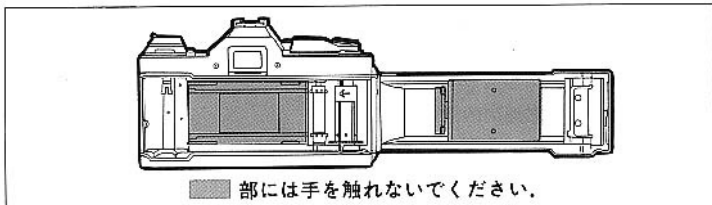
(4) 卷上げレバーをゆっくりと回し、巻取り軸にフィルムを1回巻付けます。
このときフィルムの穴が○印部の歯とかみ合っていることを確かめてください。

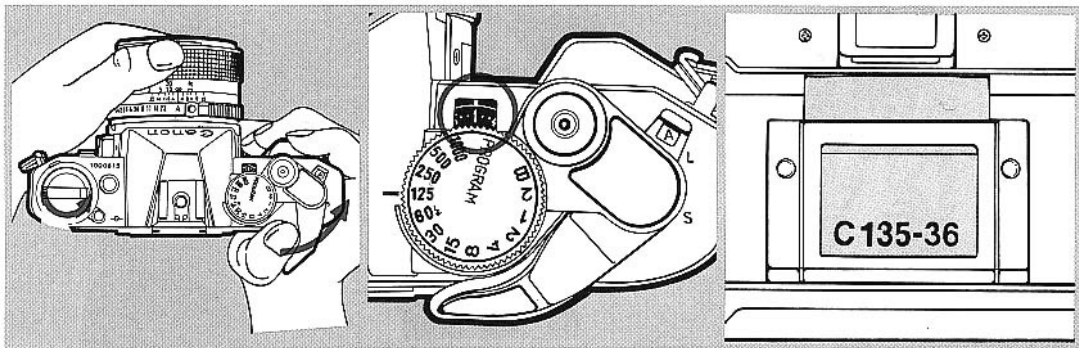


(5) フィルム出口を指で軽く押さえながら、巻戻しクランクを矢印方向に静かに回してフィルムのたるみを取り、裏蓋を閉じます。



フィルムを入れるときは直射日光下をさけ日陰で入れてください。





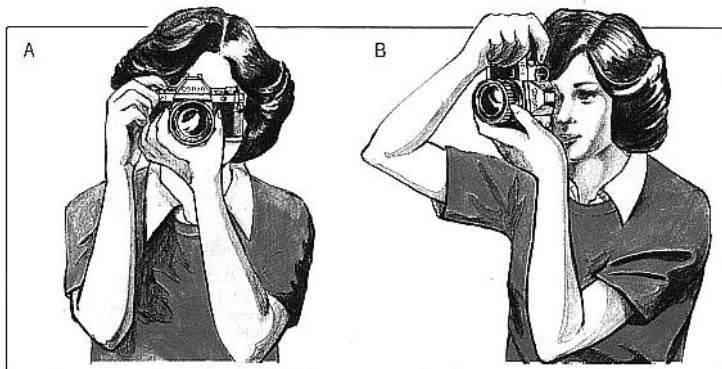
(6) 巻上げレバーを回して巻戻しクランクが回れば、フィルムは正しく送られています。

(7) フィルム巻上げとシャッターボタンを押す操作を繰返し、フィルム枚数計に「1」を表示してください。

カメラの裏蓋についているメモホルダーは、フィルム包装箱の名称表示部分を切取って差込めるようになっています。ご利用ください。

フィルム枚数計は「S」からはじまり「38」まで目盛ってあります。38以上は進みません。なお目盛の20と36はオレンジ色で表示されています。

7. カメラの構えかたの基本



手ぶれは大敵です。シャープな写真をとるためにはカメラをしっかり構えてください。

- (1)カメラは手のひらで支えるように持ちます。
- (2)カメラを支持する手のひじは体につけます。一方のひじは楽にしてください。
- (3)カメラを額につけてファインダーを覗きます。
- (4)体を斜めにして構え、足を開き

気味にします。

(5)縦位置で撮るときはBまたはC図のように構えます。

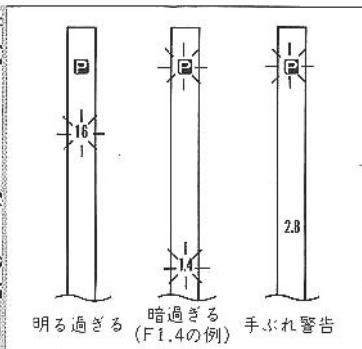
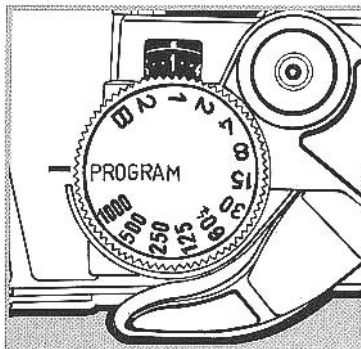
構え方には決まった方法はありませんので、ご自分に合った方法を見つけてください。構え方の練習は鏡の前で行うと効果的です。なお、実際撮影のとき、建物や木があればそれを利用して構えるのも方法です。シャッタースピードが遅くなったときは、特に有効な方法です。



8. 撮影モードを選びます

〈プログラムAE撮影〉

このカメラは用途や好みに合わせて、次の2通りのAE撮影モードが選べます。1つは初めてカメラを手にする方、面倒な操作の苦手な方、また構図やシャッターチャンスに専念したい方に便利なプログラムAE撮影、他の1つは動きを自由自在に調節して、撮影意図を十分に盛込むことのできるシャッター優先AE撮影です。その他マニュアル撮影も可能です。



(1)セレクターダイヤルを回してプログラム(PROGRAM)に合わせます。セレクターダイヤルは人指し指で回します。但しPROGRAMとBの間は回りません。

(2)シャッターボタンを軽く押してファインダーの表示を見ます。右側にプログラムAE撮影を表す☐と、絞り数字が表れます。

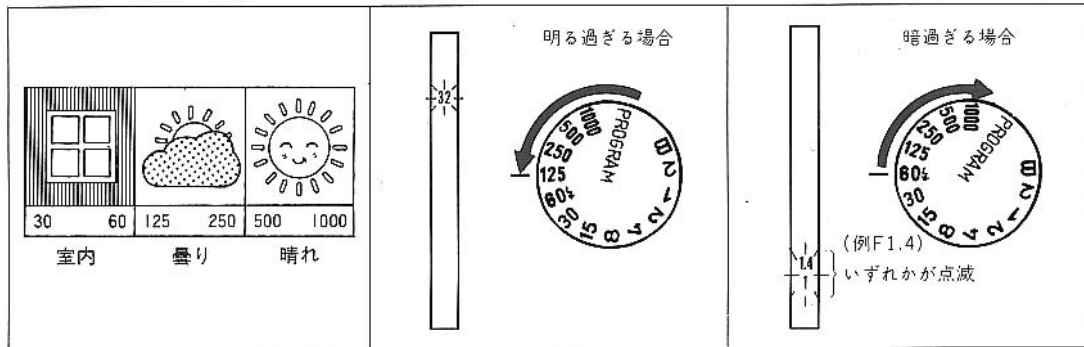
(3)絞り数字が点滅しなければ適正露出です。明る過ぎるときは、使

用レンズにかかわらずF16が点滅し、暗過ぎるときは、レンズの開放F値が点滅します。☐が点滅するときはストロボ撮影(P.22参照)か三脚使用の撮影をしてください。シャッタースピードが $\frac{1}{60}$ 秒以下になると☐が点滅して、手ぶれを警告します。

ファインダー表示の詳しいことはP.35をご覧ください。

F1.2, F1.8, F3.5というようなレンズの開放F値は、その絞り値の前後を表示します。

<シャッター優先AE撮影>



(1)セレクターダイヤルをプログラム(PROGRAM)からはずして、シャッタースピードをセットします。シャッタースピード目盛は上の図を目安に選んでください。

(2)ファインダーを覗きながら、軽くシャッターボタンを押します。絞り数字が点滅しなければ適正露出です。

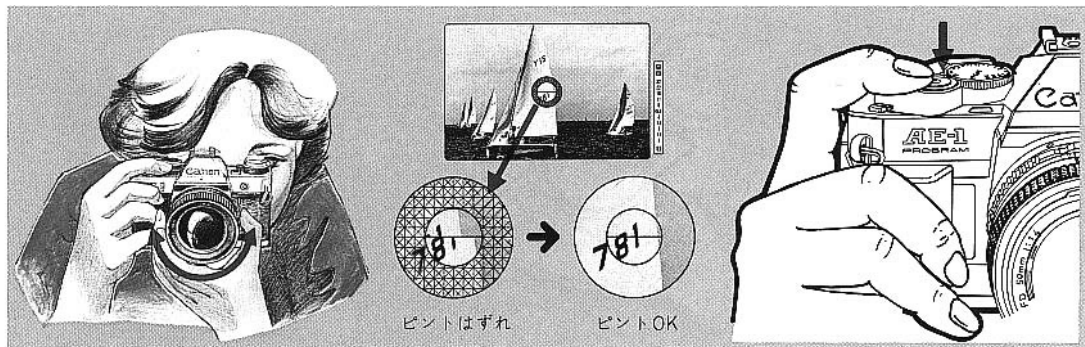
明る過ぎる場合

使用レンズの最小絞り目盛に関係なくF32が点滅します。最小絞りがF16、またはF22のレンズは、点滅しなくてもF16またはF22が表れるまでシャッタースピードを速くしてください。

暗過ぎる場合

使用レンズの開放F値以下の絞り目盛が点滅します。点滅しなくなるまでシャッタースピードを遅くしてください。

9. ピントを合わせ、撮影します



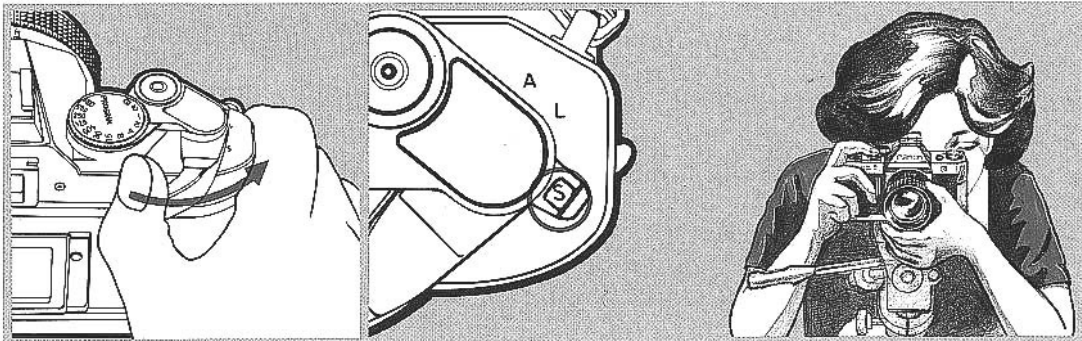
(1)ピントを合わせます。
ファインダーを覗きながら距離リングを回します。

(2)ファインダー中央の上下像が一致し、はっきり見えるようにします。この状態でシャッターボタンを押して撮影します。

(3)シャッターボタンを押すときは、手ぶれ防止のために指をのせた状態からそのまま指の腹で静かに押します。

ピント板(フォーカシングスクリーン)は好みや用途に合わせて交換できます。P.37をご覧ください。

★セルフタイマー撮影 セルフタイマー撮影は自分自身を含めた記念写真を撮るときに使用します



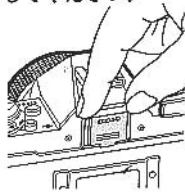
- (1)フィルムを巻上げ、次にピントを合わせます。 (2)メインスイッチをSに合わせます。 (3)ファインダーを覗きながら、シャッターボタンを押します。電子音がし、10秒後に撮影が行われます。なお、撮影2秒前に発信音が速くなります。

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、図のように接眼部にファインダーカバーを取付けてください。

シャッターボタンを押した瞬間に露出が決まりますので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。

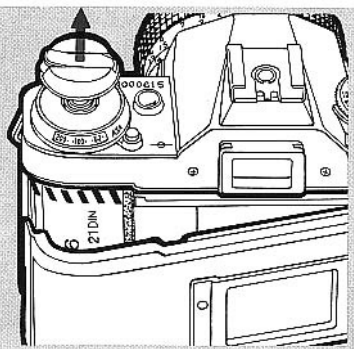
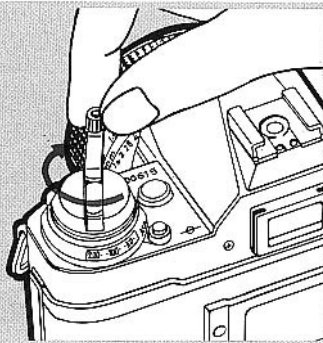
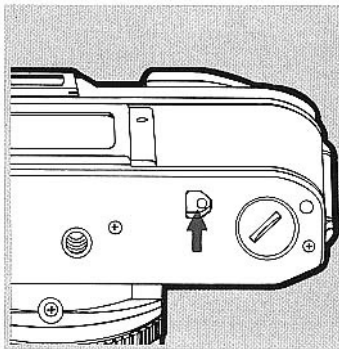
セルフタイマー撮影を途中でやめ

たいときは、電池チェックボタンを押すか、またはメインスイッチをLにしてください。



- (4)撮影が終わったら、メインスイッチをAに戻します。

10. フィルムを巻戻します



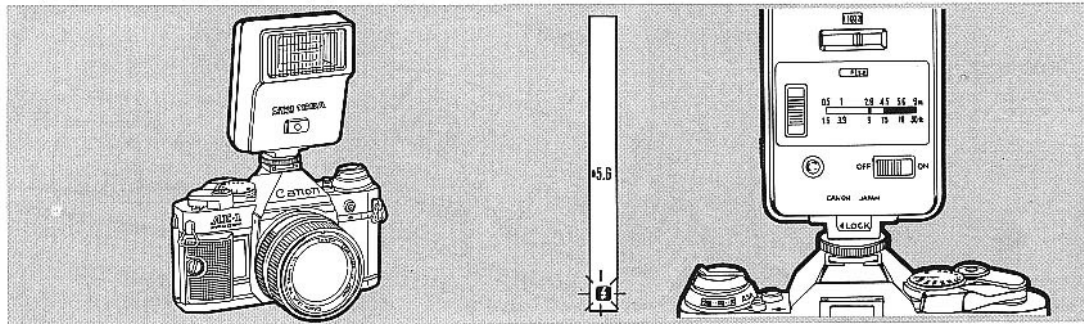
(1) 巻上げができなくなったら、フィルム枚数計でフィルムの終わりを確認し、巻戻しボタンを押込みます。

(2) 巻戻しクランクを矢印方向に回します。フィルム枚数計がSになるまで回します。なお、フィルムが巻戻されているときは巻戻しボタンも回ります。

(3) フィルム枚数計がSになったことを確かめて裏蓋を開け、フィルムを取出します。

フィルムが終わりになるとフィルム巻上げレバーが動かなくなります。動かなくなったとき、フィルム枚数計は使用フィルムの最終枚数を表示しています。

★専用ストロボを使えばフラッシュ撮影も自動です



キャノンスピードライト188Aをはじめとした専用ストロボを使用すれば、フラッシュ撮影も自動となります。

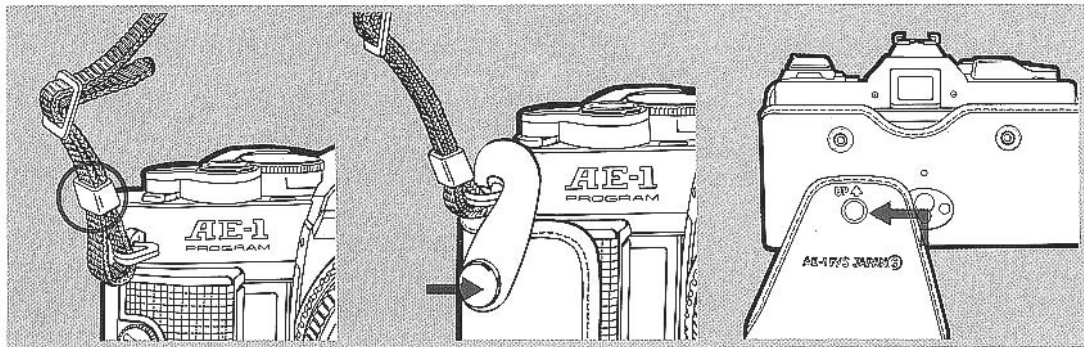
専用ストロボは一般の汎用ストロボと異なり、カメラ側にフラッシュ撮影のための準備が不要です。シャッタースピードはB以外のどこにあってもよく、絞りもAマークにセットしたままで差しつかえありません。ストロボのパイロットラ

ンプが点灯すると同時に、ファインダー内に「B」マークが点灯し、絞りとシャッタースピードが自動的にセットされ、発光準備完了となります。専用ストロボの中でも188Aの場合は、発光後ファインダー内で「B」マークが点滅して調光確認ができます。(他の専用ストロボは「B」が点滅しても調光確認とはなりません)なお、専用ストロボは一般の調光ストロボとしても使用できます。

このカメラにはキャノンの専用ストロボを使用されることをおすすめします。(P.55参照)特に他社の特定カメラ専用とされているストロボ(一般にホットシューに複数の接点をもつ)およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常機能を発揮しないことや、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

詳しい使い方は専用ストロボの使用説明書をご覧ください。

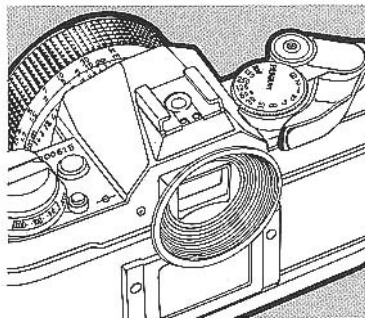
★付属品の扱いについて



ストラップ(吊りひも)先端は止め金の内側になるように通してください。なお、○印のベルト通しはできるだけカメラ側に絞ってお使いください。

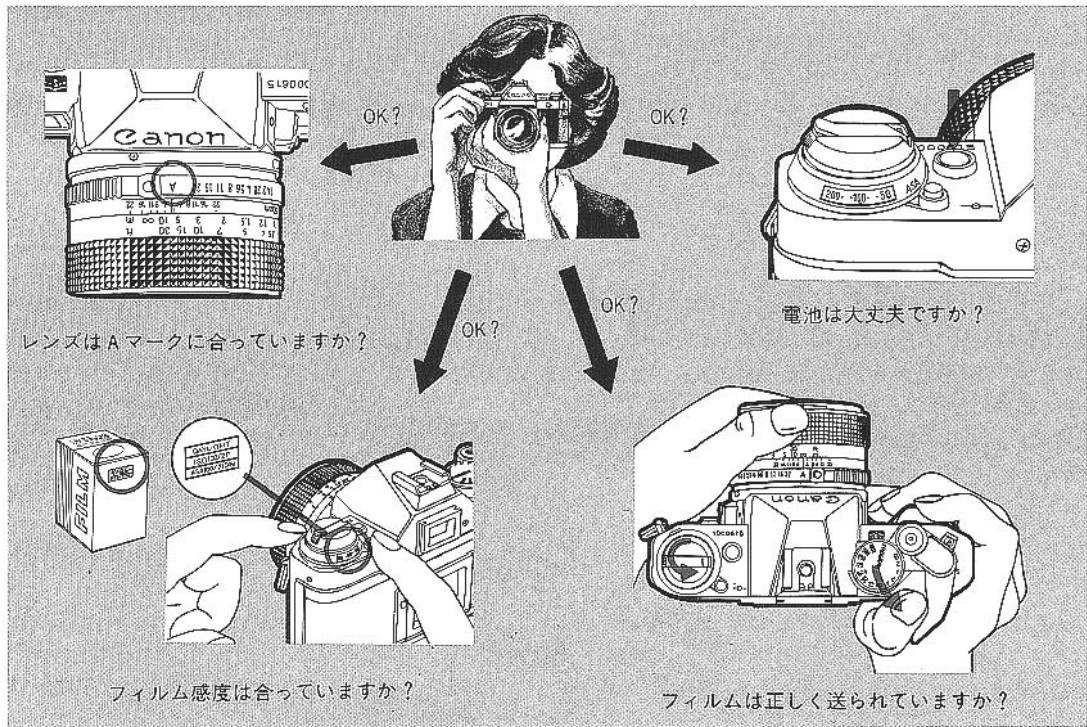
ケースは上図のように取付けます。

ケースの上カバーをはずすときは上に押上げてから手前に引っ張ってください。



アイカップは左図のように取付けます。

★撮影前にもう一度チェックを。



各部機構と応用編

文章中の各部名称後の番号、文字はP.3, 62, の名称番号、文字と照合させてご覧ください。





1. 電池性能の調べかたと取扱い

キヤノンAE-1プログラムに組み込まれている高度な機能は、電池があってはじめて作動します。次のようなときは電池を調べてください。

- 電池を交換したとき。
- 長期間カメラを使用しなかったとき。
- ひんぱんに撮影したときや、たびたび長時間露光を行ったとき。
- シャッターが動かなくなったとき。
- 寒冷地で撮影するとき。
- その他、大切な写真を撮るときなど。

電池は、次の規格に相当するものをご使用ください。

- 6Vアルカリマンガン電池——JIS4LR44
- 6.2V酸化銀電池——JIS4SR44(JIS4G13)
- 6Vリチウム電池——2CR- $\frac{3}{4}$ N

調べかた



電池電圧を調べるときは次のようにしてください。

1. メインスイッチ⑤をAにします。
 2. 電池チェックボタン⑬を2～3秒押します。
- 電圧が十分にあるものは、電子音間隔が短く、消耗するにつれてその間隔が長くなります。1秒間に2回程程度の発信音になったら、予備電池をご用意ください。

電池は通常撮影で約1年間使用できます。

電池は正しく取扱いましょう

- 電池をカメラに入れるときは、電池接点の汚れや指紋をよく拭取ってください。そのまま入れると腐食の原因となることもあります。
- 長期間カメラを使用しないときは、電池を抜取って保管してください。
- 電池は分解したり、火の中に入れてしないでください。
- 一般に、電池は0℃以下になると性能が急激に低下します。寒冷地で撮影するときは、カメラ本体を低温から守るとともに、電圧が十分にある新品電池を使用してください。予備電池を用意して、体温で温めながら交互に使用するのもよい方法です。本格的な寒冷地での撮影には、外部電源キャノンエクスターナルバッテリーパックAをご利用ください。

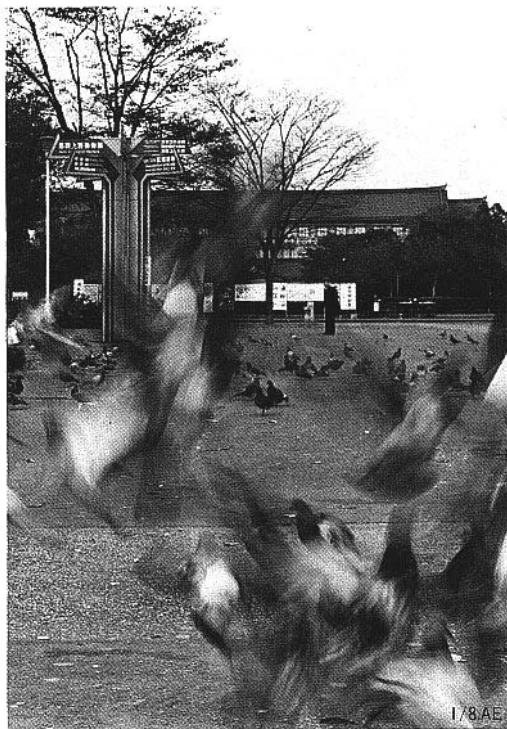
低温のために性能が低下した電池は、常温に戻ると性能が回復しますので捨てないでください。

2. 露出：シャッターと絞りのはたらき

写真を撮るためにはフィルムに適切な光を当てなければなりません。この光を当てることを露出または露光といいます。フィルムに当たる光の量を調節するのはシャッターと絞りで、シャッターは光の当たる時間を、絞りは光の通る入口の大きさを調節します。常にフィルムに適切な光が当たるように、シャッターと絞りの組み合わせを変えますが、この組み合わせを変えることによって、写したいものの動きを止めたり、ぶらしたり、またメインの被写体背景をはっきり写したり、ボカしたり、思いのままに写真の表情を変えることができます。右の3枚の写真をご覧ください。鳩を撮ったものですが、シャッターと絞りの組み合わせを変えることによって、写真のイメージが大きく変わることがおわかりいただけると思います。

キャノンAE-1プログラムのシャッター優先AEは、シャッタースピードを決めておくと、適正露出になるように絞りが自動的に決まります。

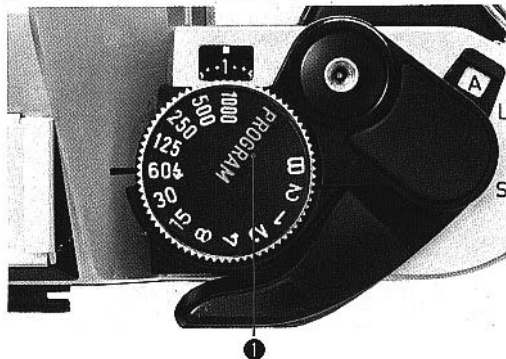
また、プログラムAEの場合は、シャッターと絞りの組み合わせが、自動的に適正露出になるように決められています。





3. シャッタースピードの選びかた

シャッターダイヤル(セクターダイヤル①)



セクターダイヤル①はシャッタースピードを決めるシャッターダイヤルも兼ねています。シャッタースピードは2秒から $\frac{1}{1000}$ 秒まで選べます。セクターダイヤル目盛の125, 250などの数字は $\frac{1}{25}$ 秒, $\frac{1}{250}$ 秒の時間を表し、数字が1段大きくなるごとに光量が半分になるようになっています。オレンジ色の2は2秒、またB(バルブ)は2秒以上の長時間露出を行うときに使用し、Bにセットすると、シャッターボタン④を押している間、ずっとシャッターが開いたままで露光が行われます。(P.49参照)

シャッタースピードを変えたときの写真効果



Aの写真は $\frac{1}{1000}$ 秒で撮ったものです。動きの瞬間を凍結することによって動きを表現しています。

④シャッターボタン④を押す瞬間にカメラが動くときシャープな写真は撮れません。これを手ぶれといいます。一般に、手ぶれを防ぐには $\frac{1}{\text{レンズの焦点距離}}$ 以上のシャッタースピードを選ぶとよいといわれます。つまり、200mmレンズでは $\frac{1}{200}$ 秒以上、セクター



Bの写真は被写体そのものの動きをぶらすことにより、流動感を表したものです。シャッタースピードは $\frac{1}{125}$ 秒です。



Cの写真は被写体の動きに合わせて、カメラを動かしながら $\frac{1}{60}$ 秒で撮ったものです。そのため被写体の背景がぶれ、一層流動感が表現されています。このようにシャッタースピードは動きを表現する役目をします。

ブターダイヤル①で $\frac{1}{250}$ 秒以上というわけです。標準レンズは50mmですから $\frac{1}{500}$ 秒以上、つまりセレクトダイヤルで $\frac{1}{500}$ 秒が手ブレ防止の限界といえましょう。

●50mmより短いレンズの場合も、 $\frac{1}{500}$ 秒を一般的な

手持ちの限界としてください。なお、このカメラはプログラム撮影の際、 $\frac{1}{500}$ 秒以下になるとPマーク②が点滅して手ぶれを警告します。

4. 絞りについて



絞りは光の量を調節するもので、絞り径の大きさを絞りリング①で変えることで光量調節をします。絞りリングの数字は、カメラにどれだけの光を入れることができるかという尺度を表します。

この尺度を絞り値といい、数字の頭にF(エフ)をつけ、F4, F5.6, などと呼びます。数字が1段大きくなるごとに光量は半分に、1段小さくなるごとに光量は2倍になります。

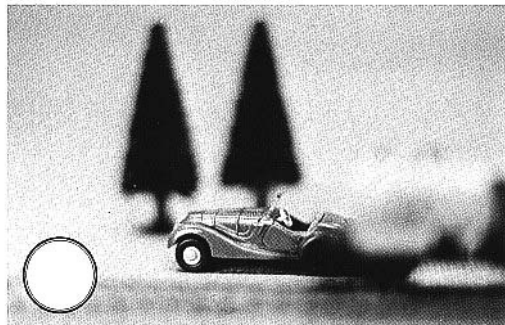
このカメラでは普通、レンズの絞り目盛②はAマーク②に合わせておきます。絞りはこの位置で、適正露出になるように自動的に決まります。この

自動的に決まる絞り値③はファインダーを覗きながら、軽くシャッターボタン④を押せば読取ることができます。絞り目盛②ごとの光量はF2を基準として考えると、次のようになります。

F	1.2	1.4	(1.8)	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	32
光量比	3	2	(1¼)	1	½	¼	⅛	⅙	⅓₂	⅙₄	⅙₂₈	⅙₅₆

レンズによって開放絞り値と、次の絞り目盛の間の光量調節が半分にならないものがあります(例、F1.8レンズ等)。なお絞りは目盛中間も使用できます。

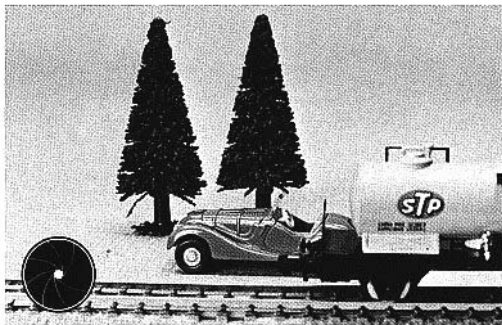
絞りを変えたときの写真効果



F1.4

同じ明るさの被写体に対して、シャッタースピードを変えると、自動的に決まる絞り値も変わります。絞りが変わると写真の奥行きも違ってきます。上の作例写真は絞り値がF1.4(左)のときとF16(右)のときのもので、F1.4の写真では背景がぼけていますが、F16の写真では近景から遠景までははっきりと写っています。このはっきりと写る範囲を被写界深度といい、絞り値が大きくなるほどその範囲は深くなります。

(P.42参照)



F16

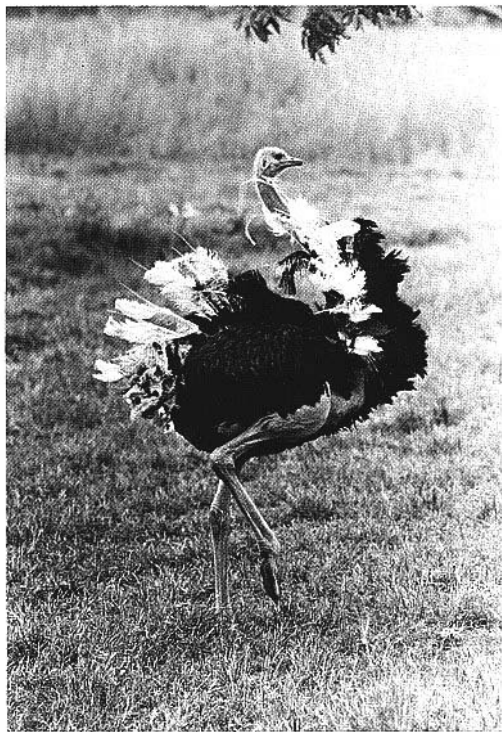
絞りはこのようにメインの被写体の前後をボカして、主被写体を強調させることができます。

絞りはいつもはファインダーを明るくするために全開になっていて、シャッターが切れた瞬間だけファインダー内に表示された絞り値まで閉じます。

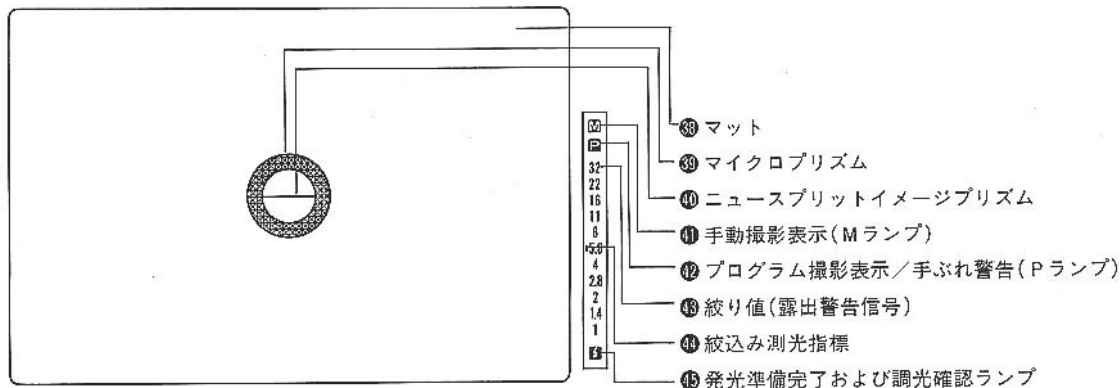
絞り値を変えるとき操作



好みの絞り値①をセットしたいときは、露出読取りスイッチ②③を押したままファインダーを覗き、セレクトダイアル①を人さし指で回してください。なお、露出読取りスイッチはケーブルリリースを使用した撮影の際も使用します。



5. ファインダー

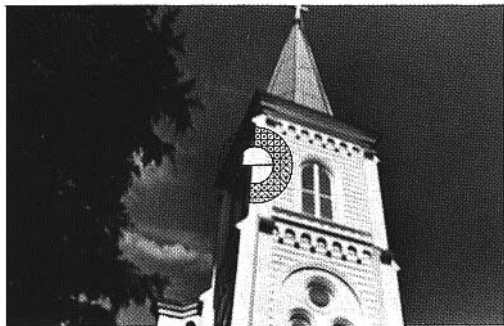


■ファインダー内の文字数字は通常、上図のように見えません。図は表示情報の全てを表示したものです。

非常に明るく見易いファインダーで、視野外に必要な情報だけを表示します。光の感じ方はメイン被写体が適正になるように配慮した、中央重点平均測光方式です。中央部にはキヤノン独特のニュースプリットイメージプリズム④を設けています。ニュースプリットイメージプリズム方式は、開放

F値の暗いレンズを使用しても、ほとんどカゲリが表れないキヤノン独特のものです。また絞り値は目の疲労を防いで見易くするため、被写体の明るさに合わせて輝度変化します。

ピント合わせ



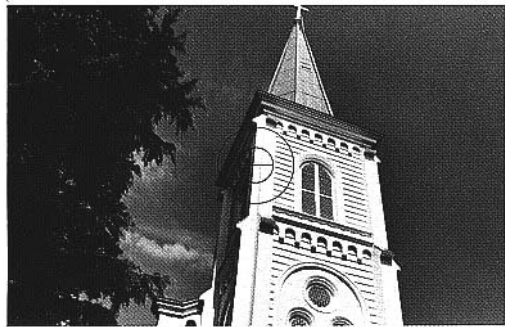
ピントはファインダー内のどこでも合わせることができ、好みや用途に応じて使いわけてください。

■ニュースプリットイメージプリズム⑩

上下に像が分かれ、像もボケているときはピント外れ、ピントの合ったときは、像が一致し像自体も鮮明に見えます。

■マイクロプリズム⑳

ギザギザした網目模様の感じがなくなり、崩れた像がもっともはっきり見えるときが、ピントの合った状態です。

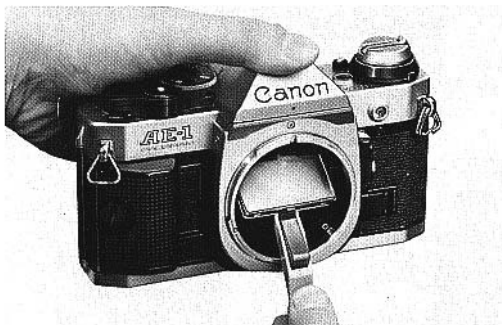


■マット㉔

もやがかかったような感じが消え、像がはっきり見えればピントの合った状態です。周辺部まで使えるため、書類など平面的なものの複写などにも適します。

開放F値の暗いレンズや絞込み測光をすると、中央円形半分に若干虹色が表れますが、これは高度な技術による世界初のニュースプリットイメージを採用したためとご理解ください。

フォーカシングスクリーン(焦点板)の交換

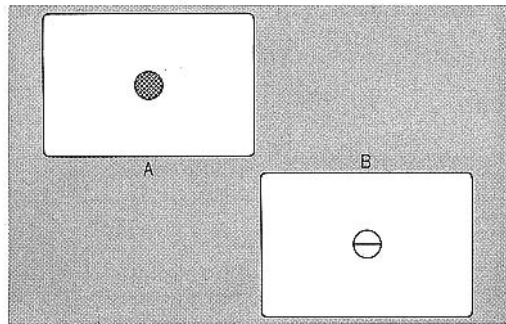


このカメラは用途や好みに応じて、フォーカシングスクリーンを交換することができます。交換の際はレンズをはずして行います。

フォーカシングスクリーンは微妙なものであると同時に高精度に仕上げられていますので、交換は絶対に手で行わないでください。必ず交換用フォーカシングスクリーンに付いているチェンジャーを使用してください。

フォーカシングスクリーンは絶対に手でふれないでください。指紋、脂等は拭取るのは困難です。

交換用フォーカシングスクリーンの種類



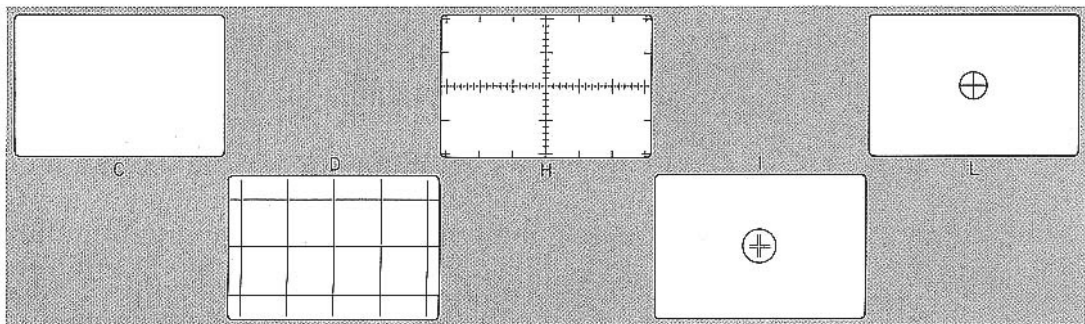
A(マイクロプリズム)

万能タイプでF5.6ぐらいまでの明るさに適します。中央円形内の像の崩れがなくなったときに、ピントの合ったときです。円形外はマット面です。

B(ニュースプリットイメージプリズム)

従来のスプリットイメージプリズムと違い、絞りが暗くなっても円形内半分がほとんど暗くなりません。

中央円形内の上下像が左右にずれなくなったときに、ピントの合った状態です。円形外はマットです。



C(全面マット)

すべてがマットで、絞込んでも全視野が均一に見えます。像全体がシャープに見えれば、ピントの合った状態です。接写、望遠撮影に適します。

D(方眼マット)

全面マットに方眼を目盛ったもので、接写、複写、建築などの撮影に用いれば、簡単に構図を決めることができます。

E(マイクロスプリットイメージプリズム)

標準装備として組込まれているものです。中央部にニュースプリットイメージプリズムを設けてい

ます。使い方はP.36をお読みください。

H(目盛線入りマット)

方眼の目盛をさらに細かくしたもので、1目盛は1mmです。接写、複写、建築写真などに便利です。

I(十字線入りマット)

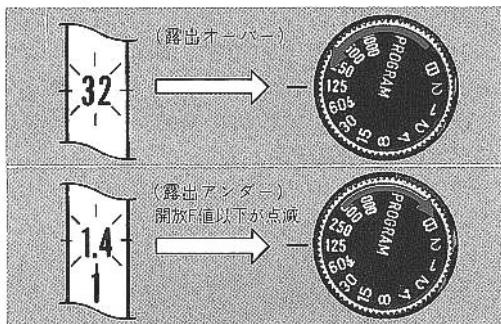
目を振ったとき中央の十字線が静止していれば、ピントの合ったときです。顕微鏡写真や天体写真撮影に適します。

L(クロススプリット)

縦、横の線で合わせることでできる新しいタイプのスプリットイメージプリズムです。

6. 露出の確認

(1) シャッタースピード優先AEの場合



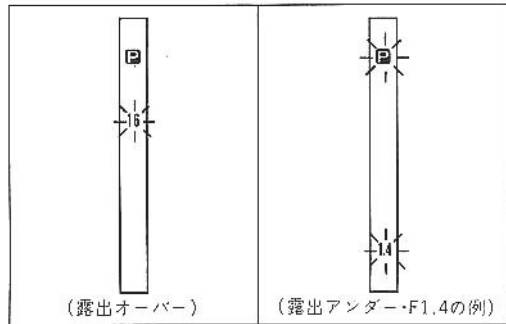
露出オーバー(明る過ぎるとき)

使用レンズの最小絞り目盛に關係なく F32が点滅します。ただし、F16またはF22を最小絞りとするレンズの場合は、点滅がなくてもF16またはF22が表れるまで、シャッタースピードを速くしてください。

露出アンダー(暗過ぎるとき)

使用レンズの開放F値以下の絞り値が点滅しますので、点滅しなくなるまでシャッタースピードを低速側へ回してください。

(2) プログラムAEの場合



露出オーバー

明る過ぎる場合はF16が点滅します。F22以上の絞り値を持つレンズの場合もF16が点滅します。点滅する場合はシャッタースピード優先AEに切替えるか、NDフィルターをご使用ください。

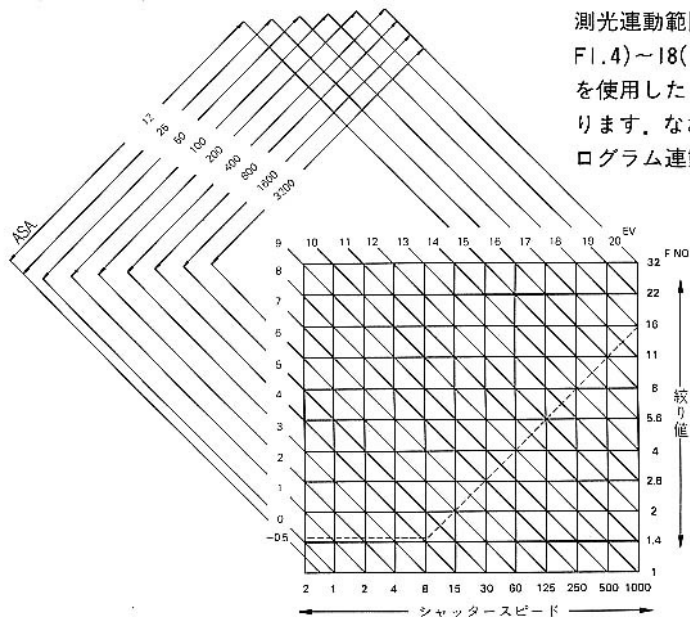
露出アンダー

暗過ぎるときはレンズの開放F値が点滅しますので、フラッシュ撮影をしてください。

開放F値がF1.2, F1.8, F3.5などというレンズは、その絞り値の前後を表示します。(例. F1.4, F2, F4)

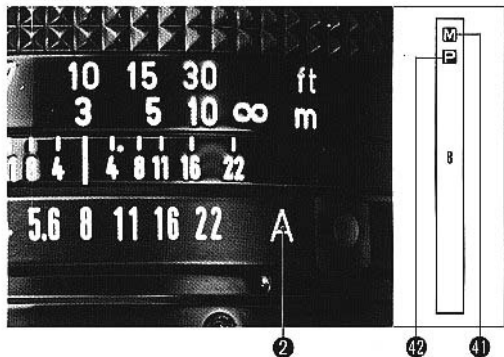
自動露出連動範囲

測光連動範囲はASA100・F1.4レンズで、EVI(1秒・F1.4)～18($\frac{1}{1000}$ 秒・F16)です。50mm F1.4レンズを使用したときの測光連動範囲は、太線枠内となります。なお点線はF1.4レンズをつけたときのプログラム連動範囲です。



プログラムAEでパワーワインダーを使用するときは、F4以上の絞り値を使用することをおすすめします。(ASA100のとき)

手動撮影表示(Mランプ)④①



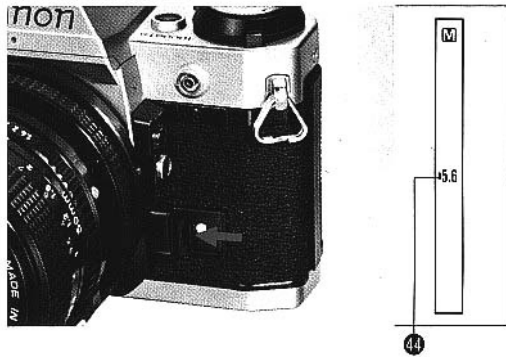
レンズのAマーク②が指標からはずれているときや、AE切換えピンを持たないレンズやアクセサリを使用したときに、このランプが点灯します。

プログラム撮影表示/手ぶれ警告(Pランプ)④②

プログラム撮影を表すマークです。セレクトターダイヤル①がPROGRAM、レンズがAになっているときに表れるマークです。

またその際シャッタースピードが $\frac{1}{30}$ 秒以下になると点滅して手ぶれを警告します。

絞込み測光指標④④



FLレンズなどを使用して絞込み手動測光を行うときの指標です。絞込み手動測光はP.47をご覧ください。

FDレンズは開放測光でご使用ください。

7. 被写界深度

被写界深度のまとめ

「絞りを変えたときの写真効果」の項(P.33参照)ですでに述べたように、絞りを変えると被写界深度が変わりますが、被写界深度は次のような性質を持っています。

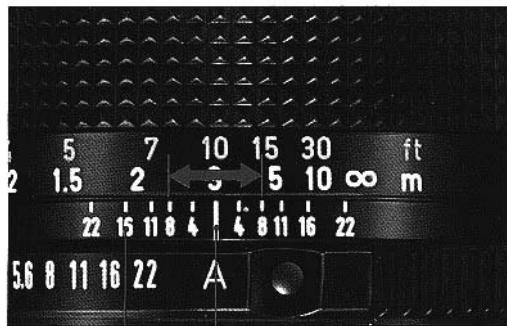
- 被写界深度は絞り値 F を大きく(絞り穴を小さく)するほど深くなり、絞り値を小さく(絞り穴を大きく)するほど浅くなります。
- 被写界深度は被写体が遠くなるほど深くなります。
- 被写界深度の範囲は、被写体を中心にして大体手前1、奥行2の割合になります。
- 被写界深度は同じ絞り値でも広角レンズは深く、望遠レンズは浅くなります。

被写界深度の確認のしかた

被写界深度の状態は、次の2つの方法で確認することができます。

1. レンズの被写界深度目盛から読取る方法。
 - 通常の撮影ではこの方法で行う。
2. 絞りを絞込んで確認する方法。
 - 目で確かめたいときはこの方法で行う。

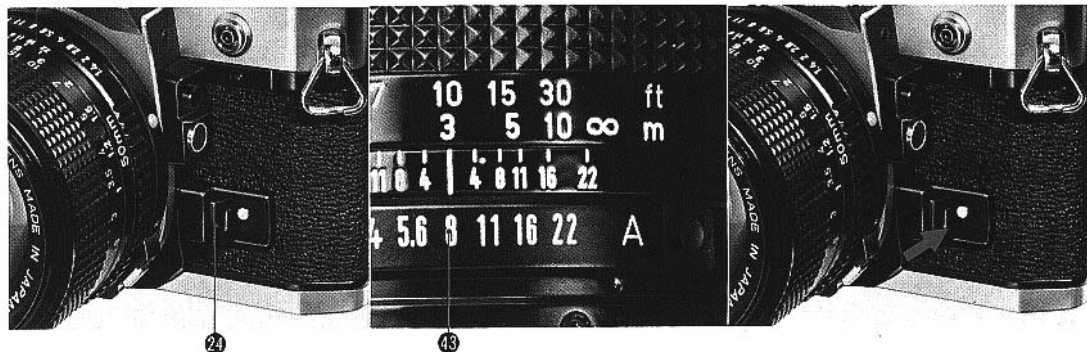
1. レンズの被写界深度目盛から読取る方法



レンズの指標 F 両側に並んでいる1対の数字が被写界深度目盛 D です。被写界深度目盛は距離目盛 D に関連づけて目盛っておりますので、深度範囲を距離目盛から、読取ることができます。

例えばある被写体を撮影したとき、絞り値 $\text{F}8$ 、撮影距離が3mだったとします。そのとき、 $\text{F}8$ に対応する距離目盛を読取ると、約2.4mと4.5mぐらいになります。この範囲がはっきりと写る範囲です。その都度ピント合わせをする時間のない、スナップ撮影はこの方法を利用します。

2. 絞りを絞込んで確認する方法



- (1) フィルムを巻上げて被写体にカメラを向け、シャッターボタン④を軽く押し、ファインダー内で絞り値④③を読取ります。例えばF8とします。
- (2) レンズのAマーク②をはずして、読取ったF8を絞りリング⑪に移しかえます。このときシャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に手動撮影表示Mランプ④①が点灯します。
- (3) 絞込みレバー②④の先端を起しロックされるまで押込みます。その状態でファインダーを覗いたときに、はっきり見える範囲が被写界深度です。
- (4) 撮影します。

- (5) 絞込みレバー先端を畳んで絞込みを解除します。
- (6) 絞りリングをAマークに戻します。

Aマークに戻すときは一度、絞りリングを開放F値にしてください。そのままAに戻すと、次の1枚目のAE撮影が不適正露出になります。

被写界深度を確認するときは、必ずフィルムを巻上げた後に行ってください。巻上げないとその前に撮影した絞り値までしか絞込めません。絞込みレバーは絞りリングのAマーク②をはずさないと押込めません。

8. 露出の補正をしたいとき



測光方式は画面中央部を重点的に測光して、被写体周囲の明るさの影響を抑える、中央重点平均測光方式です。上の写真のような明るい青空や水面を背景にした人物を撮影した場合でも、背景の明るさにあまり左右されずに、人物が適正露出になります。しかし、極端に差があるときは露出の補正をしてください。

露出補正には次の3とおりがあります。

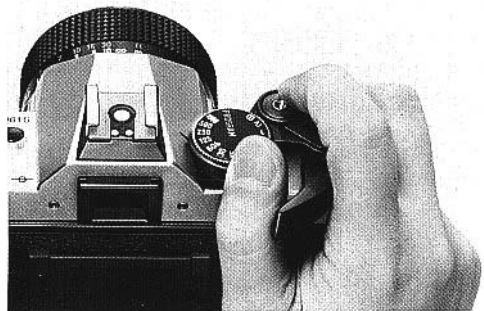
1. 露出記憶スイッチ②による補正
2. 絞りリング①による露出の補正
3. フィルム感度切換えによる露出補正

1. 露出記憶スイッチ②による露出補正



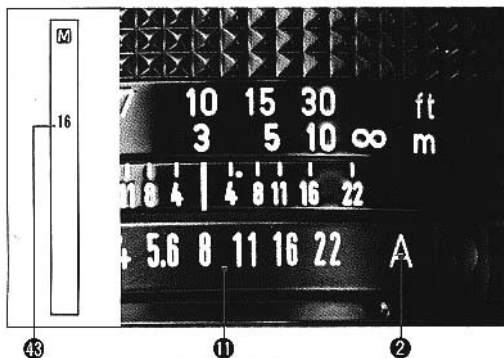
夕日を背景に記念撮影などというような逆光撮影では、次のようにしてください。

- (1)被写体に近づき、露出記憶スイッチ②を押して測光します。



(2)露出記憶スイッチを押したままにして、撮影位置に戻りピントを合わせて、撮影します。被写体は適正露出になります。

2. 絞りリング①による露出補正



レンズのAマーク②をはずしても、露出計は正常に作動しますので、強烈な逆光補正や適正值に対して自由に露出量を補正するハイキー、ローキー写真撮影等に利用できます。

(1)A マークを指標からはずします。

(2)シャッターボタン (または露出読取りスイッチ

③)を押して絞り値④3を読み取ります。例えばF16.

(3)読取った絞り値に補正量を加えた値を絞りリング①に移し変えて撮影します。例えば2絞り開きたいときはF8にします。

(4)撮影後は絞りリングをAマークに戻します。

3. フィルム感度の切換えによる露出補正



ASA感度目盛数字が $\frac{1}{2}$ になると、露出量は2倍になりますので、フィルム感度目盛の切換えを利用すれば、露出の補正ができます。

例えば舞台写真で強烈なスポットライトを浴びて人物の全身像を撮るときは、ASA 400のフィルムをASA 1600に合わせ直して使えば、絞り値を2目盛大きくしたのと同じことになります。

撮影後は忘れずにASA感度を元に戻してください。露出の補正は勘と経験から決めてください。なお、撮影するときは決めた絞り値だけでなく、その前後0.5絞り程度も撮影しておくといでしょう。

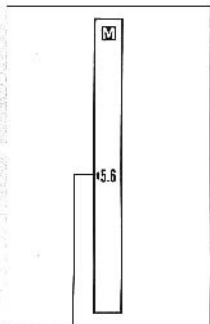
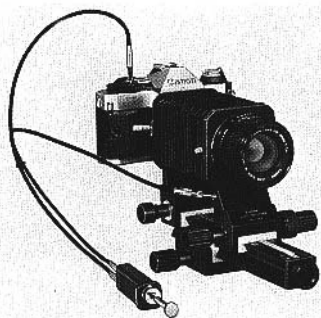


マニュアル(手動)撮影

シャッターと絞りの組合わせを自由に変えて、イメージどおりの写真を撮りたいようなときはマニュアル撮影をしてください。

マニュアル撮影はレンズのAマーク②を外して、シャッターと絞りの組合わせを自分で決める方法です。AマークをはずすとMランプが点灯します。なおAマークをはずしても露出計は正常に作動します。

10. 近接拡大撮影と絞込み手動測光



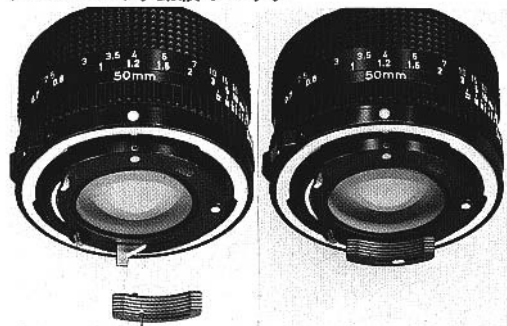
近接拡大撮影でレンズとカメラの間に絞り連動ピンを持つ、ペローズ、エクステンションチューブFL、およびFLレンズを使用するときは、絞込み手動測光を行います。

- (1)絞込みレバー②④をロックされるまで押し込みます。
- (2)シャッターボタン④(または露出読取りスイッチ②⑥)を軽く押しながら、
- (3)レンズの絞りリング①(またはセレクターダイヤル①)を回して、ファインダー内に④絞込み測光指標を表示すれば適正露出が得られます。

セレクターダイヤルがプログラム位置では、絞込み手動測光撮影はできませんので、ご注意ください。絞込み測光は実際にレンズの絞りを絞込んだ状態で露出を測ることをいい、測光の際、ファインダーは暗くなります。開放測光の場合は絞りを開いたままで測るため、ファインダーは常に明るい状態で露出を決めることができます。

FDレンズを直接カメラに取付けた場合は、必ず開放測光で使用してください。絞込み測光をすると、露出誤差がでます。なお開放測光信号ピンを持つ、エクステンションチューブFD、エクステンダーFDを併用した場合も同様です。

FDレンズの手動絞りロック



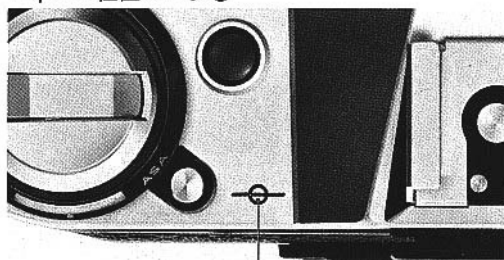
絞りレバー ストッパー

レンズとボディの間に絞り連動ピンのない、中間チューブなどをはさんで撮影するときは、手動絞りで撮影しなければなりませんので、次のようにしてください。

レンズ後部の自動絞りレバーに別売の絞りレバー ストッパーを取付け固定します。この状態でエクステンションチューブM等に取り付け、絞りリング⑩を回せば絞り羽根が開閉します。

絞りレバー ストッパーを取付けたレンズを、直接カメラやベローズ等に取り付けしないでください。

フィルム位置マーク⑰



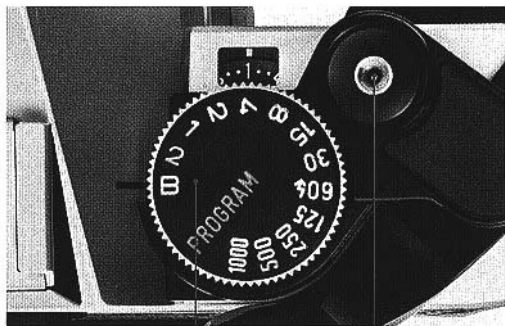
フィルム位置マーク⑰は一般撮影では使用しませんが、近接、拡大撮影などで実測するときを使用します。フィルム位置マークは、フィルム面の位置を示し、レンズの距離目盛⑬はこのマークから測った距離です。

次のレンズはレンズ後部がボディ側の信号ピンを押込むため、露出は手動セットとなります。

FL19mm F3.5, FL35mm F2.5, FL50mm F1.8,
FL58mm F1.2, R35mm F2.5, R50mm F1.8,
R100mm F2

また、上記のレンズはフィルムの巻上げ後に取付けてください。

11. 長時間露出とB(バルブ)



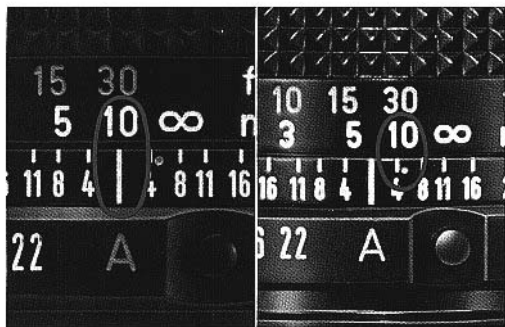
2秒を超えるような暗い場所(作例写真参照)では、セクターダイヤル①目盛をBにセットして撮影してください。シャッターボタン④を押している間は、シャッターが開いたままになります。バルブ撮影では三脚とロック付ケーブルリリースを併用してください。



バルブ撮影は電池を継続して使用するため、電池の消耗が非常に激しくなり、撮影途中で容量がなくなることもありますので、電池は容量の十分にある新品に換えてください。

なお、ひんぱんに長時間露出をする方は外部電源エクスターナルバッテリーパックAをご利用ください。単3型乾電池を電源とするため非常に経済的です。

12. 赤外写真と赤外マーク



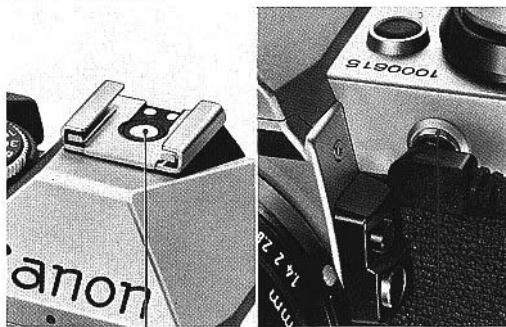
赤外マークは白黒赤外フィルムを使用する場合のマークです。白黒の赤外フィルムを使っての撮影では、通常の撮影とピント位置が違ってきますので、次のようにしてください。

最初にピント合わせをします。その結果が10mなら、レンズの距離目盛⑬の10を赤外マークに、合わせ直します。これで撮影すればよいわけです。なお、赤外フィルムを使用したときは赤色フィルターを併用します。

詳しいことやカラー赤外についてはフィルムの使用説明書に従ってください。

13. フラッシュ撮影

シンクロ接点④



直結用接点

④

直結式ホットシュータイプ、およびコード接続用シンクロ接点④のいずれも使用できます。両ターミナルを使っての2灯発光もできます。汎用ストロボを使用するときは、シャッタースピードを $\frac{1}{60}$ 秒に、絞りはガイドNo.計算で求めた値か、調光絞り値にセットします。フラッシュ撮影については、お買求めの機種の使用説明書をご参照ください。

シャッター スピード		$\frac{1}{400}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{650}$	$\frac{1}{800}$	$\frac{1}{1000}$	$\frac{1}{1250}$	$\frac{1}{1600}$	$\frac{1}{2000}$	$\frac{1}{2500}$	$\frac{1}{3200}$	1	2	B
閃光電球	FP							△	○	○	○	○	○	○
	M-MF							△	○	○	○	○	○	○
ストロボ						○	○	○	○	○	○	○	○	○

(△印は閃光電球によりばらつきのもので)

ストロボや閃光電球を使用する、フラッシュ撮影の同調範囲は上の表のようになります。



Q. 誤ってフィルムを巻戻さないで、裏蓋を開けたらどうなりますか。

A. スグノ裏蓋を閉めてください。そして巻戻し後現像に出してください。状況によって異なりますが、結構ダメにならない部分があるものです。なお撮り直しのできるときは、撮り直すことをおすすめします。

Q. カメラが動かなくなったら、どうしたらよいでしょう。

A. 動かなくなったら、次のことを確かめてください。

1. 電池が消耗していないか。
2. フィルムが巻上げられているかどうか。
3. メインスイッチが(L)になっていないかどうか。
4. フィルムは終わっていないか。

これでも動かないときは、故障と思われます。

Q. 電池の寿命はどれ位ですか。

A. 普通に撮影して1年位もちます。しかし電池は自然放電しますので、使用しなくても1年程度で交換してください。なお長期間使用しないときは電池は抜取って保管してください。入れたままにすると、電池漏液を起し故障の原因となることがあります。

Q. フィルム外箱のASA100、あるいはISO100/21°というのは何ですか。

A. フィルム感度目盛です。フィルム感度目盛は光に感じる度合を数字で表わしたものです。数字が大きくなるほど敏感に感じ、暗い所でも写せます。なおASAはアメリカ規格協会(American Standards Association)の略で、ISOは国際標準化機構(International Organization for Standardization)のフランス語の頭文字をとったものです。

Q. カメラは多少の雨や雪の中で使用しても大丈夫なものでしょうか。

A. カメラは精密機械ですので避けた方が無難です。特に電気回路は水を嫌いますので、そのような中での使用は避けたいものです。しかし止むを得ないときは市販のカメラ防水カバーや撮影者も一緒にかぶる、カメラマンレインコートを利用するとよいでしょう。なお防水カバーはキャノンCPEでも販売しています。

Q. 寒い所で撮影するときは、どんなことに注意をすればよいでしょうか。(例えばスキー場など)

A. 27ページをご覧ください。

なお寒い所で使用したカメラを暖かい室内に持込むと、急激な温度差によってカメラに水滴が付きますので、ご注意ください。

戸外でビニール袋にカメラを密封したのち室内に入れ、30分位環境温度に慣らしてから取出すのも1つの方法です。



Q. ASA100のネガカラーフィルムをASA400にセットして撮影してしまいました。大事なフィルムですので何とかならないでしょうか。

A. 写真は決められたフィルム感度をカメラにセットすることによって、最適な状態になるようになっていきます。従って、感度目盛りは必ず指定の値にセットしてください。ご質問の件は露出アンダーになります。ASA400を100にセットした場合は、露出オーバーになります。それを少しでも救うために、フィルムを現像に出す際は、必ずその旨申し添えてください。

Q. 交換レンズが欲しいのですが、初めて買うレンズとしては何を選べばよいでしょうか。

A. 別冊の「もう僕は交換レンズの世界に夢中だ」をご覧ください。

Q. 従来のスプリットイメージプリズムは、暗いレンズをつけると半分が暗くなりましたが、これは暗くありませんが、なぜですか。

A. このカメラはスプリットイメージ部のプリズムに大小2つの角度を持つものを使用しています。大きな方で明るいレンズでの測距、小さな方で暗いレンズでの測距を行います。その結果スプリットイメージプリズムが暗くならないのです。これは世界初のキヤノンの技術です。なおマット部はレーザー技術を応用、活用しているため非常に明るいファインダーを実現しました。

Q. 花や昆虫を手軽に大写しをする方法はないものでしょうか。

A. レンズ前面にクローズアップレンズを付けるかレンズとボデーの間にエクステンションチューブを付ければ簡単に写せます。なおマクロレンズは一般の50mm、

100mmレンズとして使用することもできます。

Q. ストロボを買いたいのですが、どんなものを買ったらよいでしょうか。

A. ストロボには汎用ストロボと専用ストロボがありますが、専用ストロボをおすすめします。専用ストロボであれば通常のAE撮影と同様の操作で、フラッシュ撮影ができます。特に専用ストロボの中でもキヤノンスピードライト188Aは発光後に調光確認もできますので便利です。なおキヤノンの専用ストロボは汎用ストロボとしても使用できます。

Q. なぜフォーカシングスクリーンを手で交換してはいけないのですか。

A. 万一フォーカシングスクリーンに汗や脂が付くと拭取りが困難となります。また付着すると素通しガラスの状態になり、ピント合わせの役目を果たさなくなります。またミラーやミラーボックスに汗や脂が付くと、内部で乱反射を起こしフレアの原因となることもあります。キヤノンではこれらの事故を防ぐため、絶対にフォーカシングスクリーンの交換を手で行うことはおすすめできません。

Q. キヤノンAE-1プログラムにはパワーワインダーA2、Aが使えますが、どんなときに使うのですか。

A. フィルムが常に巻上げられた状態になっていますので、動きのある被写体に便利です。なお一般撮影において連写をし、その中から最も良い写真を1枚選び出すという使い方もあります。

14. 主な付属品

キヤノンパワーワインダー-A2



キヤノンAE-1プログラムのフィルム自動巻上げ装置です。撮影が行われるとただちにフィルムが巻上げられ、次の撮影に備えますので、素早くシャッターチャンスをつ捉えることができます。メインスイッチのC位置で約2コマ/秒、S位置で1コマ撮影が可能です。連続撮影は $\frac{1}{60}$ 秒以上でご使用ください。

キヤノンパワーワインダー-A2は他のキヤノンAシリーズ一眼レフカメラにも使用できます。キヤノンパワーワインダー-Aも使用できます。なお連続撮影は $\frac{1}{60}$ 秒以上でご使用ください。

キヤノンモータードライブMA

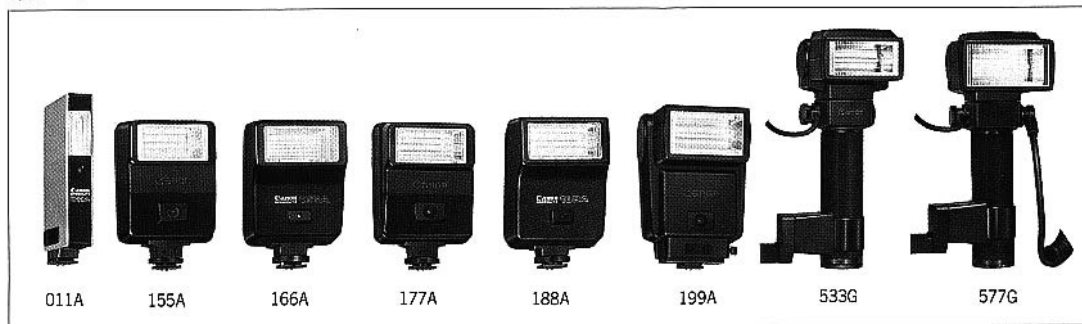


キヤノンAE-1プログラムにモータードライブMAを併用すると最高4コマ/秒までの撮影ができますのでスポーツ、動物など動きの速い被写体撮影に適します。

電源は単3型電池を使用するバッテリーバックと充電式のNi-Cdバックの2種類があり、お好みに合わせて選べます。

連続撮影時のシャッタースピードは $\frac{1}{60}$ ～ $\frac{1}{1000}$ 秒でご使用ください。

専用ストロボ

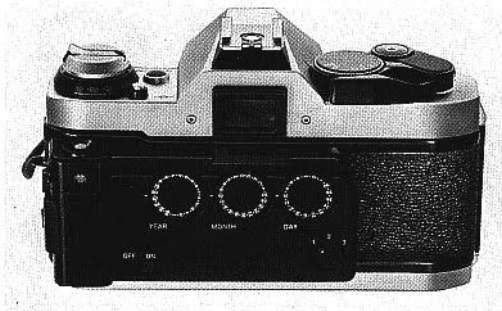


主要性能表

	011A	155A	166A	177A	188A	199A	533G	577G
ガイドナンバー(m, ASA/ISO 100)	14	17	20	25(16)	25(16)	30(16)	36(22, 18, 51)	48(28, 24, 63)
照射範囲レンズ(mm)	35	35	35	35(28)	35(28)	35(24)	35(24, 20, 100)	35(24, 20, 100)
発光間隔(秒)	9	7	7	8	8	10	10	6
発光回数	約150以上	約300以上	約250以上	約200以上	約200以上	約100以上	約120以上	約150以上
調光絞り選択スイッチ	F4	F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 11手動	F2.8, 5.6, 11	F2.8, 5.6, 11, 手動
調光距離範囲(m)	0.5~3.5	0.5~6	0.3~7	0.5~9(0.5~5.7)	0.5~9(0.5~5.6)	0.5~10.6(0.3~6.3)	1~12.8 (0.5~7.8) (0.5~6.4) (2.5~18.2)	1~17 (0.5~10) (0.5~8.5) (2.5~22.5)
使用フィルム感度(ASA)	25~800	25~800	25~800	25~800	25~800	25~800	25~800	25~800
電 源	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3 積層パック トランジスタパック	積層パック トランジスタパック
備 考				1)内はフィアダプター 使用時	1)内はフィアダプター 使用時	1)内はフィアダプター 使用時, バランス撮影可, スローシンクロ可, その他	1)内はアダプター使用時 バランス撮影, スローシ ンクロ可, その他	1)内はアダプター使用時 バランス撮影, スローシ ンクロ可, その他

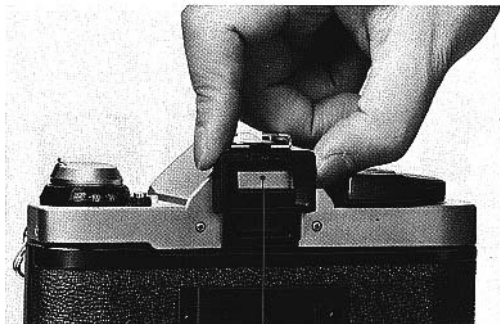
■データはAM-3型新品電池使用時です。■発光間隔は新品電池にて発光後パイロットランプが点灯するまでの時間です。■発光回数は30秒間隔です。

データバックA



日付写込み装置内蔵の交換用裏蓋です。楽しい思い出と同時に画面右下に年月日を写込みます。また、日付の記録だけでなくアルファベット文字もあり、組合わせて各種データの記録にも活用できます。

視度補正レンズ



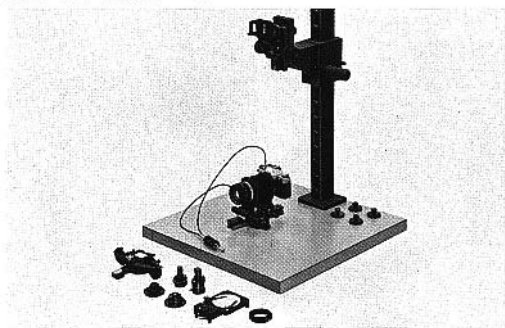
視度補正レンズを取付ければ、近視遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度は-1ジオプターですが、交換用視度補正レンズとして10種あります。
-4, -3, -2, -0.5, 0, +0.5, +1, +1.5, +2, +3 (ジオプター)
視度補正レンズは実際にカメラに取付けて覗き、確かめてから選んでください。
視度補正レンズはファインダー接眼部⑳の溝に上から差込んで取付けます。

キヤノンワイヤレスコントローラーLC-1



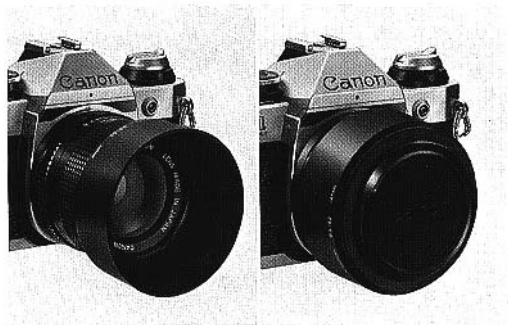
キヤノンワイヤレスコントローラーLC-1は赤外線利用の遠隔撮影コントローラーで、パワーウィンダーA2またはモータードライブMAと併用します。コード不用で遠隔操作ができるため操作性、機動性に優れ、動物、スポーツその他の撮影に威力を発揮します。キヤノンワイヤレスコントローラーLC-1は送信機と受信機で構成され、受信機を取付けてあれば何台のカメラでも同時にコントロールすることができます。

接写・拡大撮影システム



キヤノンオートベローズ、コピースタンド5を中心とするシステムです。簡単なクローズアップ撮影から複写、拡大、顕微鏡撮影までできます。

フード



フードは有害光線をカットしますので、ぜひ使用してください。

フードの取付けは、レンズ先端のフード取付けバヨネットにはめ込んで回すだけです。

はずすときは逆回しにします。なお特殊なものを除いて、フードはギャゼットバックなどへの収納を考慮して、逆向きにかぶせてキャップをすることができるようになっています。

★手入れと保管

手入れ

どんな優れたカメラでも適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮することはできません。そのため常に手入れを心がけてください。手入れ用具として、ブロワーブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、シリコンクロスなどがあります。

レンズとファインダーはブロワーブラシで砂やホコリを吹払った後、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭取ってください。

海辺などで使用したカメラは塩分がついていますので特によく拭いてください。カメラのミラーボックス内はブロワーブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、キヤノンサービスステーションにお持ちください。フィルム室内には、フィルムカスなどが付きやすいため、常にゴミを吹払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムにすりキズをつける原因になります。レール面や圧着板をふく場合はクリーナー液とクリーニングペーパーを使用してください。その際、シャッター幕には手をふれないでください。

保管

カメラケースをはずし、電池類を抜取って、湿気やほこりのないところに保管してください。

またカメラは長期間使用しないでおくとかびや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所はさけてください。

- ①車のトランクやリアウインドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるためさけてください。
- ②実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐食などの原因になるためさけてください。同様にタンスの中などもさけてください。

長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。

長期間使用しなかった後や、重要な撮影の前には、各部の作動をご自身でチェックしてからご使用ください。

★主要性能一覧

型 式：電子制御式35mmフォーカルプレーンシャッター—眼レフAEカメラ

画面サイズ：24×36mm

使用レンズ：FDレンズ群(開放測光AE撮影)
FLレンズ群(絞込み測光撮影)

標準レンズ：FD50mmF1.2, FD50mmF1.4, FD50mmF1.8

レンズマウント：FD, FL, Rレンズの取付け可能

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル式

フィルター：交換可能, 標準を含み8種

視野率：上下94%, 左右94%

標準視度：-1.0ジオプター

倍 率：0.83倍(50mmレンズ付き無限遠)

ファインダー情報：視野外にデジタル表示, **P**(プログラム), **M**(マニュアル), 絞り値, **B**(発光準備完了, 調光確認), 警告信号など

測光方式：受光素子にSPC(シリコンフォトセル)使用の中央重点平均測光, および指標合わせのマニュアル測光

測光範囲：ASA・100でEV1 (F1.4・1秒)~18 (F16・ $\frac{1}{1000}$ 秒)

使用フィルム感度：ASA12~3200

露出記憶スイッチ：押込み式スイッチによる

露出読取りスイッチ：押込み式スイッチによる

シャッター：全速電子制御の4軸式布幕フォーカルプレーンシャッター

シャッタースピード：PROGRAM・ $\frac{1}{1000}$ ・ $\frac{1}{500}$ ・ $\frac{1}{250}$ ・ $\frac{1}{125}$ ・ $\frac{1}{60}$ ・ $\frac{1}{30}$ ・ $\frac{1}{15}$ ・ $\frac{1}{8}$ ・ $\frac{1}{4}$ ・ $\frac{1}{2}$ ・1・2(秒)・B

セルフタイマー：電子制御式, メインスイッチをSにセット, 始動はシャッターボタンによる, 時限は10秒, 電子音告知

絞込み：絞りリングを手動にセットしたときのみ, 絞込みレバーを押込む

電 源：6Vアルカリマンガン電池(JIS4LR44), 6V酸化銀電池(JIS4SR44), 6Vリチウム電池(2CR- $\frac{1}{3}$ N)通常の使用で約1年間使用可能

電池チェッカー：電池チェックボタンを押して電子音による

シンクロフラッシュ：X接点, $\frac{1}{60}$ 秒, M級は $\frac{1}{30}$ 秒以下

ソケット：アクセサリシュー部には直結接点および信号接点あり, ボディ前面にJIS-B型シンクロ接点あり, 感電防止機構付き

フラッシュオート機構：専用スピードライト使用でシャッタースピードと絞り値がパイロットランプ点灯と同時に自動セットされ, 自動調光による撮影

裏 蓋：着脱可能, データバックAと交換可能

フィルム巻上げ：120°回転レバーによる予備角30°小刻み

★アフターサービス

巻上げ可能、電動巻上げ機により自動巻上げ可能

フィルム枚数計：自動復元順算式、フィルムの巻戻しに連動回転

フィルム巻戻し：巻戻しボタンおよび上部クランクによる
その他：電池消耗時はカメラが作動しない安全機構、
シャッター作動中の巻上げ防止など

大きさ・重量：141×47.5×88mm・575g(ボディのみ)
FD50mmF1.4付き810g

- 1.保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお運賃諸掛りはお客様にてご負担願います。
 - 2.本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間内でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買上げ店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問合せください。
- ★修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

各部名称

